



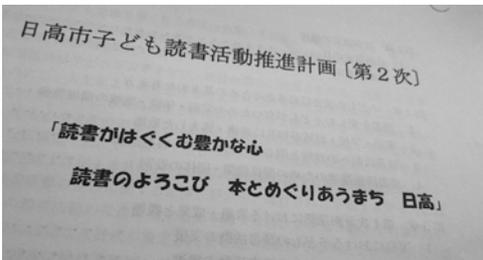
子どもの読書活動の推進について

田中 まどか

問 子どもの読書活動の推進に関する法律に基づき、多くの自治体で「子どもの読書活動推進計画」が策定されている。日高市は、いち早く平成16年に策定したものの、平成24年から28年までの第2次計画は、期間の終了後、更新がされていない。計画の有効性と次期計画の策定予定は。

答 次期計画は、小中一貫教育への移行、GIGAスクール構想の実施、読書環境の変化などを踏まえ、来年度中を目途に策定準備を進めていく。それまでは現計画に基づいて読書活動を推進していく。

問 現計画では、「学校の読書環境を整備する上で、図書館司書教諭、図書整理員、図書館支援ボランティアの存在は大変重要です。」とあるが、令和2年度の会計年度任用職員制度導入に伴って、市内12校を巡回して本の整理、点検、修理、廃棄、新着本の受入れ等を行っていた図書整理員2名の配置がなくなつた。その結果、これらの作業が滞り、児童生徒の読書活動に支障が出るほか、図書担当教員の負担も増し、特に児童数や蔵書数の多い学校は深刻と考えるが現状の認識は。



心豊かな子どもたちを育てるために

答 図書整理員の必要性は認識しており、今後関

係各課と調整していきたい。また、学校運営協議会で学校図書館の整備について熟議していただきたい。

新型コロナワクチン接種について

問 予約開始時の混乱やワクチン供給状況の変化を見て、当初の接種計画から改善した点は。

答 一人では予約が困難な方に公民館等で予約支援を行い、約2千件の相談があつた。医療機関の協力で予約枠については、一日当たり100から150件追加して、7月末までに総数で約5千700件増やした。集団接種会場の開設日は5日間増設した。医療機関での接種会場は、1カ所追加した。電話予約等については、保健相談センター内に対応人員を配置するなど改善策を講じている。



高指山の活用について

和田 貴弘

問 高指山無線中継所跡地の現段階の活用方法は。

答 今年度購入した無線中継所跡地は、遠足やハイキングで訪れる皆様の休憩場所など広場として開放する。敷地の周囲に転落防止柵を設置するほか、さらに、頂上に山頂表示を設置する。

問 高指山を含む「ふるさとの森」の指定状況は。

答 日和田山周辺の第1号地に続き、高指山周辺の区域を保全するため、この地域を第2号地に指定する準備を進めている。高指山山頂を含む約2haを候補地と位置付けており、地元関係区長への連絡のほか、対象になる土地の所有者の方から日高市環境保全条例に基づく「ふるさとの森」の指定について、同意をいただいた。

問 日和田山、高指山、物見山の3つの山をPRし、親しみを持ってもらうべく、新たなイメージキャラクターを採用する考えは。

答 観光面や環境保全の観点、森林資源を活用した地球温暖化対策に関する意識の醸成等を目的に啓発していくことが重要と考え、3つの山頂の特色を生かした愛着を持たれる通称を定め、PRしていきたいと考えている。

問 地域に伝わる素朴な観光資源の掘り起こしはどうか。

答 お祭りなど地域の伝統行事は、地域の皆様のPR活用に対する理解と機運の高まりが必要なことから、市としての支援を検討していく。

問 地域の賑わいの創出に空き店舗を有効活用する考えは。

答 商工会と連携しながら、活用必要性について検討する。

問 地域や家庭で伝統的に受け継がれている「うどん」や「まんじゅう」などの郷土料理を日高の名物にする考えは。

答 郷土料理などを多くの方に知っていただく取り組みとして商工会の実施する高麗の郷ブランド認証などの制度を活用し、日高市の名物となるよう引き続き市内業者等と連携していく。

観光推進と地域振興について



地域の伝統行事

商工会と連携しながら